

張 燕  
(Zhang Yan)



北京師範大学教授

北京師範大学教育学科卒。現在北京師範大学教授、修士課程教授、北京就学前教育研究会常務理事、北京市幼兒教師スタジオと非政府組織「四環ゲームグループ」の責任者。

専門は就学前教育原理、就学前教育体制と管理、幼兒教師専攻発展、居住地域非正規幼兒教育と流動兒童教育問題。近年の主な著作は『幼稚園管理』（人民教育出版社 2008年）、『学前教育管理学』（北京師範大学出版社 2009年）、『幼稚園管理実例と分析』（北京師範大学出版社 2002年）、『反省の中での成長』（北京師範大学出版社 2007年）、『四環ゲームグループの物語-流動兒童に向けた非正規就学前教育の探索』（北京師範大学出版社 2009年）等。

### 都市は、流動兒童に基本的な就学前教育を提供できるのか

#### — 平民教育が教育の公平性を実現させる現実的な選択である

出稼ぎ労働者(農民工)が都市部に入り込むことと人口の家庭単位の移動が増大することによって、いくつかの大中都市において、流動就学前兒童数が既に戸籍兒童数を超過している。経済体制転換という社会背景及び幼兒教師に対する需要の増加によって、下から上への庶民教育が促進された。民間が設立した農民工の子どもを相手にした各種の非正規幼稚園が大量に現れ、低コストで経営することによって弾力的かつ便利なサービスを提供し、低所得者層対象の市場が自発的に形成された一方、市民社会の芽生えにつれて、流動兒童幼兒教育の現実的需要に応じて第三種の勢力が現れた。

市場の需要に応じて生まれた非正規教育、即ち『山寨幼稚園』、は設立主体からいうと、私立幼稚園または民間幼稚園に属する。設立形式からみると、年齢がそれぞれ違う家庭幼稚園もあれば、年齢によってクラス分けをして保育する幼稚園もあるが、全体的な規模は小さい。地域分布と園児からみれば、都市の周辺或は都市と農村の境目に分布するのが多い。主に当地の農民工の子どもを募集しているため、「出稼ぎ労働者の子どもの幼稚園」、「農民工幼稚園」とも呼ばれている。

低所得者層の流動人口の幼兒教育需要に応じて、「第三の道」として、政府と市場以外の民間運営の非営利幼兒教育団体が必要である。例えば、北京にある農産品市場の中で誕生した「四環ゲームグループ」は、子ども達が遊ぶ場所、保護者が育児をする場所でもあり、ボランティア達が実習する教育研究の基地でもあり、教育の郷土化と庶民化を表している。

現実の需要に応じて社会が自発的に形成した低所得者層対象の幼兒教育市場と第三の勢力は、低い階層或は庶民階層の相互扶助行為であり、基本的な社会福祉の提供によって流動人口、特に農民工の需要を解決し、流動兒童の最も基本的な就学前権利を保障した。しかし、教育体制以外で現に存在する庶民教育は政府の許可に得られないばかりでなく、軽蔑されさらには禁止される境遇にある。

庶民教育は発展の背景から、「小政府、大社会」という改革方向と一致する。子どもの就学前教育権利を保障し教育の公平性を促進するために、イデオロギー及び幼兒教育に対する認識の違いを突破し、体制改革を深化させ、実際に即した政策と管理方法を制定することが必要である。